

15	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102018	分散ネットワーク構造を有する超高速認識行動システム	石川 正俊（東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授）	A
（意見等） 1.計画調書と研究状況報告書から、上記 A の判断とする。 2.最終報告書では下記に留意する可きである。 1)システム構成部品の製作のプロセスと本研究の関連性の明記 2)MIT 以外の国外研究成果と本研究の成果の相互関連性の明記				
16	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14102019	高温超伝導線材の微細構造電磁現象を基礎とした交流電気機器への応用要素技術の体系化－機器の磁界環境下で交流損失を大幅に低減する手法の研究－	塚本 修巳（横浜国立大学・大学院工学研究院・教授）	A
（意見等） 研究代表者らの提案による電氣的交流損失測定法の妥当性が検証され、機器に近い集合導体および巻き線での交流損失解析手法も開発されている。また、新たに考案した疑似ツイスト法が交流損失低減に有力であることをシミュレーションにより確認し、さらに単純な構造の試作品でその有効性を確かめている。以上を総合すると、「交流損失を一桁低減する手法を研究し、高温超伝導を交流電気機器に応用するための要素技術を体系化する。」という本研究の目標が“極めて順調に達成されつつある”と結論できる。研究成果は、超伝導関係の重要な国際会議および学会誌において公表されており、超伝導応用における普遍的な基礎技術として貢献が期待される。				